

# 平成 30 年度 事業計画

## 1. 運営環境

生活水準の向上、医学・医療の進歩とともに、子供たちの健康も増進されてきましたが、未だ多くの子供たちが病に苦しんでいます。さらに、女性の社会進出の増加や I C T の急速な普及など社会環境の大きな変化により、小児医学研究者が取り組むべき課題の幅は広がっています。このような課題に十分に取り組める環境作りは常に求められてきましたが、小児医学に振り向けられる研究費が不足している、というのが小児医学界の現実であり、それだけに当財団への関心と期待は年を追う毎に高まってきています。

## 2. 平成 30 年度事業活動の基本方針

当財団の中心的事業である小児医学研究者に対する研究助成事業は今年で 29 回目を数え、小児医学川野賞も 19 回目となります。お蔭様で小児医学界においても、当財団の活動は高いご評価を頂けるようになりました。昨年度、事業運営および財団運営の改善を図ると共に、当財団の理念や活動内容・実績をより多くの方にご理解頂けるよう、事業報告書の発行等により広報活動を強化いたしました。当年度も引き続き、このような活動を継続していくと共に、来年度に迎える 30 周年という節目に向け準備をしていきたいと考えております。

## 3. おもな事業の実施計画および活動計画

### (1) 助成金の支給

小児医学研究者に対する助成金の支給を行います。

埼玉県内の高校を卒業し、又は首都圏内に在住し、かつ、総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事する者を対象とします。年々応募数が増加していることを踏まえ、当年度の小児医学研究助成は 45,000,000 円とします。そのうち一般枠とは区別して、若手研究者の研究について「若手研究者助成枠」を設け、対象者を広く募集し奨励助成を行います。また、小児医学の向上・発展に資することを目的として、小児医学に関連した医学会開催の支援（「医学会助成」）についても前年度と同様に行います。

助成金	45,000,000 円
医学会助成	2,500,000 円
総額	47,500,000 円

### (2) 小児医学川野賞の表彰

小児医学研究を奨励し、小児医学発展に寄与することを目的として、「基礎医学分野」、ならびに「社会・臨床医学分野」で優れた業績をあげた研究者に対し、小児医学川野賞をそれぞれ贈呈します。

基礎医学分野	1,000,000 円
社会・臨床分野	1,000,000 円
総額	2,000,000 円

(3) 奨学金の給付

埼玉県内の高校を卒業し、日本国内の総合大学医学部、または医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生に対して、奨学金の給付を行います。平成29年度での終了予定者は3名おり、継続給付予定者15名です。新規給付者5名を想定し、合計20名を予定します。

給付総額	14,400,000円
合計	14,400,000円

(4) 小児医療施設支援

医療施設に入院中の小児患者のQOL（生活の質）向上のため、それに要する活動および設備の充実のための費用について、埼玉県内の医療施設へ助成金を交付します。

小児医療施設支援	500,000円
----------	----------

#### 4. 予算編成方針

収益面は、基本財産組入株式の増配および安定した寄附が期待できると考え、前年度より増加すると予想されます。これにより費用面では、各事業運営のための十分な予算確保が可能になります。併せて、安定的かつ永続的な財団運営のための組織体制強化に資金を振り向ける考えです。

【収益の部】

- 基本財産運用収益      ・ ・ ・    株式配当金は、88,097,500円を見込みます。  
株式以外の債券の利息・配当収益を610,000円とします。  
以上、合計で88,707,500円を見込みます。
  
- 寄附金                      ・ ・ ・    寄付金を広く募り、13,000,000円を計画します。
  
- その他の収益              ・ ・ ・    主に特定資産のうちの公社債などの有価証券による運用の果  
実を、400,000円とします。  
又、預金の利息等からの雑収益を1,500円見込みます。

以上、一般正味財産の収益合計は 102,109,000円の予算といたします。

【費用の部】

- 事業費
- ・ ・ ・ 事業費は「2. おもな事業の実施計画および活動計画」に記載事業内容と、これを遂行するための諸経費で構成されます。事業費は合計で86,939,000円を計画します。前年度予と比較し、4,248,000円の増加を見込みます。
- 管理費
- ・ ・ ・ 管理費は給与手当、旅費交通費、委託費等の財団運営に必要な費用で構成されます。前年度予算と比較し、3,920,000円増の15,170,000円を計画します。
- 資金調達及び設備投資の見込み
- ・ ・ ・ 借入の予定なし。設備投資の見込みなし。

以上、一般正味財産の費用合計は 102,109,000円の予算といたします。

以上の結果、収益と費用の差額は、プラスマイナス0円となる予算編成になっています。

以上